



Photo: RJB-75-00



Photo: RJB-55-00



ナローネック、2P.U.、2V、1Tのペーシックは'60MODELに有り!!

現在のロック界でPrecision Bassと人気を誇っているJazz Bass、1959年Leo Fenderが発表して以来、現在まで製作されている中でも特に注目されているのが'59-'64MODEL。しかし39年の1/4コンボリナーゲートボディがニューモデルの進化した2P.U.オールタイム・ジョイント。これは、フレット間隔に不適合のためすべて生産は中止された。そして、翌年、'62のオールタイム・トーンコート・フィニッシュが、現在にいたるまでこの価格が採用されている。フルオクティクスでは、'60-'64MODELの持つ有名なナローネック、アルダー・ボディ、アール・ペーシック、P.U.、コントロールなど重要なパーツをこの利用で現代に復活させたのだ。



JAZZ BASSはローズフィンガーボード、ナローネックで頂点を極めた!!

厚手のローズ指板をフラットラーストした'60MODELのRJB-75、ローズラッドラーストネックのRJB-55、'64MODEL、'60年代による個性の違いを明確にスペックで表わしたのがこのRJBシリーズだ。ネック形状は'60MODELのフリップ・アワーを基本にしたスラム・ナロー・ネックを再現。カブ・フェルナンデス・インカーブも悪いことはない。



タイトなオールドサウンドよりもう一度。RJB Vintage P.U.はハムバックキング・アクトプット・フェイズシステムだ!!



Wボールドベース、シングルコイルP.U.を70年代リアにリアアプであるのがRJBのシステム。このP.U.とリアアプの組み合わせはリアにアンプのサーキットにPB (リア配置) と入数を2分する個性の異なったサウンドがあるのだ。フェルナンデスでは、オールドサウンドを再現するため'60オールドと異なるマテリアル、コンデンサを設定。オールド特有の深味の異なるサウンドを完全にオールドした。

ボディにはオールドの代表的素材アルダーを使用。味わい深いオールドサウンドを約束してくる。

RJB/RPBには、オールドの代表的素材アルダーが使用されている。繊維組織の密度が高い。エージング済みボディのラットフェイスはロクブレイでも腐れを押し止さない。また、オールドアルダーも、正確に再現したボディシェイプは、プレイヤーの身体にフィットさせる。フェルナンデスではこのアルダー材をアメリカオregon州とワシントン州から輸入したものを厳選して使用している。オールド時代の素直なボディに求められたフレットボディなのだ。

素材はもとより、スクリーサイズまでフルコピー、スバイラルドリッジ・テールピース。



4タイプはネックがフルラインアップ!!
ワイドネックのRPB-70、レギュラーネックのRPB-50。

フレット間隔は、現在までに大きく分けてタイプのリレーションがある。1957年に3回目の変更が行われた時に現在のPBの規格を不動のものとした。裏表のU、スプリットタイプがConfor Contours Bodyにアプトされたのだ。現在あるPBのメーカーの多くは、大きく異なるタイプだ。フェルナンデスでは、オールドPBが頂点を極めた時代よりよりリアルなフレット間隔の'57MODEL、'59年にセーショナルにデビューしたローズフラット・ネックの'58MODEL、レギュラー・フラット・ネックの'59モデルの3タイプのPBのオールドモデルをRJB-70、50で復したのだ。



パワーひかえめ、タイトな低域。"詰め"コシのオールドサウンド!!

各型に対してWボールドベースを持ち、基本的にはシングルコイルではなくが低域強固と高音強調をこなす。その点のみに目を向けたら、インテンシティのアップ・トゥ・フェイズP.U.なのだ。Revel RPB MODELでは'57オールドのスペックを基本として、アルニオールベースコイルをボールド・ベースに素材を合わせた。また、コイル・アンプはオールドサウンドの再現を最大限までして、アルダーボディのマッチングを意図した。フェルナンデスのスペシャル・コイル・アンプに仕上がっている。



Photo: RPB-70-57

Photo: RPB-70-59



Photo: RPB-50-57

Photo: RPB-50-59